

## 国際協力関連

2016年に開始したJICA(日本国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトが最終年度となるため2018年も頻繁にネパールへ渡航した。ネパールへは1月、2月、3月、4-5月、7月、11月の6回渡航し、6月にはモザンビークで眼科医療支援(アイキャンプ)を行った。また医学部がモンゴルでモンゴル医科大学附属病院建設プロジェクトを行っているため、モンゴルへも2月、3月の2回渡航した。さらに8月にはザンビアへ現地視察に渡航した。

### ネパール 1月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

1月14日(月) 夕方、徳島から羽田へ移動  
1月15日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ  
1月16日(水) ～17日(木) JICAプロジェクト業務  
1月18日(金) カトマンズからビルガンジへ移動、  
ビルガンジで内科医セミナー指導  
1月19日(土) ビルガンジからカトマンズへ移動  
1月20日(日) 日本大使公邸でのレセプション出席  
1月21日(月) カトマンズからビラトナガールへ移動、  
ビラト眼科病院視察および技術指導、  
ビラトナガール医科大視察  
1月22日(火) ビラト眼科病院で手術指導、カトマンズへ移動  
1月23日(水) ～1月24日(木) JICAプロジェクト業務  
1月25日(金) 帰国の途に就く  
1月26日(土) 帰国

### ネパール 2月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

2月4日(月) 夕方、徳島から羽田へ移動  
2月5日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ  
2月6日(水) JICAプロジェクト業務  
2月7日(木) JICAプロジェクト終了式典  
2月8日(金) ネパール網膜硝子体学会総会に出席  
2月9日(土) ネパール網膜硝子体学会総会のJICAプロジェクトセッションで講演  
2月10日(日) カトマンズからポカラへ移動、ヒマラヤ眼科病院で症例検討会  
2月11日(月) ポカラからカトマンズへ移動  
2月12日(火) ～2月14日(木) JICAプロジェクト業務  
2月15日(金) 帰国の途に就く  
2月16日(土) 帰国

### モンゴル 2月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

2月19日(火) 徳島～関空～インチョン～ウランバートル  
2月20日(水) モンゴル医科大附属病院建設現場視察  
2月21日(木) モンゴル医科大関連病院視察。技術指導  
2月22日(金) 帰国

### ネパール 3月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

3月6日(水) 関空～バンコク  
3月7日(木) APAO出席  
3月8日(金) APAO出席  
3月9日(土) バンコクからカトマンズへ移動  
3月10日(日) JICAプロジェクト業務  
3月11日(火) JICAプロジェクト業務、現地事務所閉鎖、在ネパール日本大使と面談  
3月12日(水) JICAネパール事務所でプロジェクト完了報告  
3月13日(木) 帰国の途に就く  
3月14日(金) 帰国

### モンゴル 3月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

3月19日(火) 徳島～関空～インチョン～ウランバートル

- 3月20日(水) モンゴル医科大附属病院建設現場視察
- 3月21日(木) モンゴル医科大関連病院視察、技術指導、医科大学で講義
- 3月22日(金) 帰国

**ネパール 4月・5月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA 予算)**

- 4月27日(土) 関空～香港～カトマンズ
- 4月28日(日)～4月30日(火) トリブバン大学附属病院眼科で診療・技術指導
- 5月1日(水) カトマンズからポカラへ移動。ヒマラヤ眼科病院で眼科助手指導
- 5月2日(木) ポカラからカトマンズへ移動
- 5月3日(金) 小児眼科病院で技術指導
- 5月4日(土) 帰国の途に就く
- 5月5日(日) 帰国

**モザンビーク眼科医療支援プロジェクト(独自プロジェクト)**

- 6月11日(火) 出国、関空～ドバイ(エミレーツ航空)
- 6月12日(水) ドバイ～ヨハネスブルグ～マプト(エミレーツ航空、南アフリカ航空)
- 6月13日(木) マプトからシャイシャイへ移動。シャイシャイ病院訪問
- 6月14日(金) 患者診察および手術場を設営
- 6月15日(土) 71人の白内障手術施行
- 6月16日(日) 術後回診、72人の白内障手術施行
- 6月17日(月) 術後回診、73人の白内障手術施行  
合計216人(218眼)の白内障手術終了
- 6月18日(火) 術後回診、器材梱包、撤収後マプトへ移動、JICA事務所訪問
- 6月19日(水) 帰国の途に就く、マプト～ヨハネスブルグ～ドバイ
- 6月20日(木) ドバイ～関空

**ネパール 7月(徳島大学)**

- 7月19日(金) 夕方、羽田へ移動
- 7月20日(土) 羽田～バンコク～カトマンズ
- 7月21日(日)～7月23日(火) トリブバン大学医学部附属病院眼科で技術指導
- 7月24日(水) 悪天候のためポカラへの移動をキャンセル
- 7月25日(木) 小児眼科病院で技術指導
- 7月26日(金) 帰国の途に就く
- 7月27日(土) 関空に帰国

**ザンビア眼科医療状況視察(自費)**

- 8月19日(月) 夕方、羽田へ移動
- 8月20日(火) 羽田～ドバイ～ルサカ(ザンビア)
- 8月21日(水)～22日(木) 現地病院視察
- 8月23日(金) 帰国の途に就く。ルサカ～ドバイ
- 8月24日(土) ドバイ～羽田
- 8月25日(日) 羽田～徳島

**ネパール 11月(徳島大学)**

- 11月12日(火) 夕方、羽田へ移動
- 11月13日(水) 羽田～バンコク～カトマンズ
- 11月14日(木) 空路メチへ移動。メチ眼科病院で技術指導
- 11月15日(金) メチ眼科病院で技術指導
- 11月16日(土) メチからカトマンズへ移動
- 11月17日(日)～11月19日(火) トリブバン大学医学部附属病院眼科で技術指導。
- 11月20日(水) カトマンズ～ポカラ。ヒマラヤ眼科病院で技術指導。
- 11月21日(木) ポカラ～カトマンズへ移動。
- 11月22日(金) 帰国の途に就く。
- 11月23日(土) 帰国。

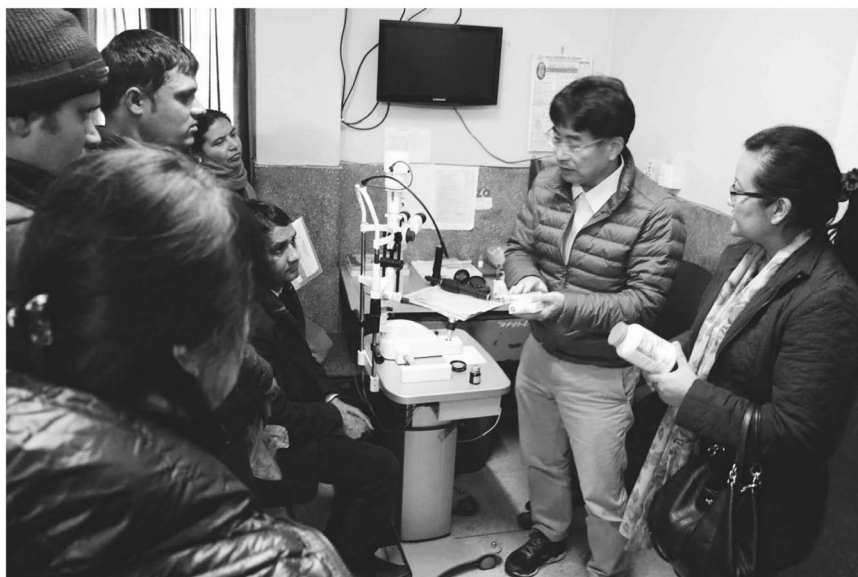
## 2019年ネパール活動概略

2016年から開始された JICA 草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト（通称 RECON プロジェクト）」は、皆様方のご支援により無事完了した。

2月にはカトマンズでプロジェクト終了式典、さらにネパール網膜硝子体学会年次総会での特別講演を担当した。この特別講演には日本から3名の先生に講演を依頼した。近畿大学の國吉一樹先生、水戸の小沢眼科の塙本 宰先生、三重の松阪中央総合病院の久瀬真奈美先生にそれぞれの専門分野である、網膜症変性疾患、小切開硝子体手術、網膜薬物治療に関して講演して頂いた。カトマンズでの講演会の翌日にはポカラで、実際の患者さんを診察しながらの症例検討会を開催した。症例検討会では実際に患者さんを診察し、現地の眼科医と治療内容に関して検討し、患者さんと家族に治療方針を説明した。現地の患者さんにとっては貴重な機会であり、我々眼科医にとっても良い経験となった。



(ネパール網膜硝子体学会年次総会での記念写真)



(ヒマラヤ眼科病院での症例検討会)

3月にはアジア太平洋眼科学会（APAO）がバンコクで開催され、ネパールへ行く前に出席した。日本眼科学会の推薦で、APAOで表彰されることとなったためである。日本眼科学会の大鹿理事長から必ず出席するようにとメールを頂き、失明予防に関するの賞を頂いた。APAO出席後、ネパールへ行き、徳島大学の現地プロジェクト事務所を閉鎖した。これで、JICAプロジェクトに関しての現地業務はほぼ終了した。



(APAO での表彰式)

4月下旬から5月上旬にかけてネパールに渡航したが、JICAプロジェクト終了後の持続発展的な活動に向けてであった。トリブバン大学医学部附属病院眼科で新たに網膜硝子体フェローシップを立ち上げ、研修プログラムを開始した。このため今後2カ月に一度程度ネパールに渡航することになった。さらにポカラのヒマラヤ眼科病院で単眼倒像鏡の講習会を行った。ヒマラヤ眼科病院関連の山岳部僻地眼科診療所で眼底検査を普及させるためである。6カ所の診療所に単眼倒像鏡のセットを投入した。この資金は、私の紹介記事が日本経済新聞に掲載され、それを読んだ関東の企業会長からの寄附であった。大変有り難いことで、日本経済新聞の影響力は大きいと思った。さらに、7月、11月とネパールへ渡航し、JICAプロジェクト終了後の経過観察と研修プログラムの指導を行っている。



(単眼倒像鏡講習会)

## 2019年モザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）報告

2019年のモザンビークアイキャンプも2018年と同様にシャイシャイで行った。これはモザンビーク保健省からの依頼による。シャイシャイの病院には私達が指導してきた眼科医が成長し赴任している。彼は手術技術を習得し地域医療に貢献しているので、彼の活躍ぶりを見るのが楽しみであった。

6月11日（火）夕方のバスで関空へ移動。関空で姫路のツカザキ病院の長澤先生、野口先生、種子島医療センターの田上先生と合流した。私は先週末にギックリ腰になり関空に着ければ大丈夫と思っていたので、合流できた時には安堵した。腰痛のため一人で重い荷物を運べるかどうかが問題であったが、運んできた追加の荷物を分配し梱包し直した時には、私の頭の中ではすでにアイキャンプは9割がた終了していた。毎年の事ながら、アイキャンプの準備の過程で色々と問題が生じるからだ。長年積み重ねてきた経験のおかげで問題処理能力はあると自負しているが、今年はモザンビークに來襲した巨大サイクロンには驚いた。サイクロンは現地でお世話になっている宝山さんの住むベイラを甚大な被害を巻き起こしながら通過した。一時、宝山さんの安否が確認できず、アイキャンプどころではないと思った。宝山さんの被害も思ったより少なくアイキャンプのコーディネートを例年通りやって頂けた。

関空からの深夜便でドバイへ離陸した。我々より一足先に成田から看護師の沼田さんがドバイへ飛び立った。

6月12日（水）早朝のドバイに到着し、無事沼田さんが合流した。そして、ヨハネスブルグで乗り換えモザンビークのマプトに着いたのは現地時刻の夜9時過ぎであった。順調な旅であったが、関空を出てから約30時間の長旅であった。空港では宝山さんが出迎えて下さった。ただ宝山さんから翌日、サイクロンがやってくるとの警告が出ているとの情報を聞き悪い予感がした。

6月13日（木）朝起きると快晴である。嵐の前の静けさか雲ひとつない快晴である。朝9時半にホテルを出発しシャイシャイへ向かった。マプトを出てしばらくしたところで車がパンクし、タイヤ交換にかなり時間を費やした。シャイシャイに近づくに連れ、だんだん風が強くなり雲の流れも速くなってきて、時おり雨が降ったが問題なかった。シャイシャイの病院ではモイゼス先生が出迎えてくれた。荷物を降ろし無事予定を終了した。

6月14日（金）曇り時々雨。サイクロンは大したことはなかった。朝、アイキャンプ会場の病院へ行ってみると大勢の患者さんたちで埋め尽くされていた。早速準備して、手術患者を選択した。約300人の患者さんを診察し、200人余りの手術患者を選択し、眼内レンズを選定した。両眼の失明患者を最優先するようにモザンビーク人眼科医に説明し手術計画を立てた。その後、手術場の設営、手術顕微鏡の組み立て、手術器具の滅菌依頼をして予定を終了した。



(待っていた大勢の患者さんたち)



(術前検査)

6月15日(土)曇りのち晴れ。手術準備をして朝10時に手術開始したが、人手不足のため私は終始外回りに徹した。途中テレビモザンビークの取材がありインタビューに応じた。アイキャンプ初日に手術をしないのは初めである。しかし、若手が頑張ってくれ71人の手術を終了したのは午後6時であった。翌日の手術に備えて手術器具の洗浄と滅菌の依頼をして日程を終了した。



(手術室)

6月16日(日)晴れ。前日に手術した患者さんを回診した。手術結果は概ね良好であった。視力を回復して喜び歓声をあげる患者さんや、踊り出す患者さんもいた。回診後早速手術の準備をし、手術を開始した。夕方までに72人の手術を終了した。アイキャンプも回数を重ねているので手馴れたものである。



(モザンビーク人眼科医に手術技術指導を行う長澤先生)

6月17日（月）晴れ。手術患者さんの回診後、手術を開始し夕方までに73人の手術を終了した。この中には2名の先天白内障の小児が含まれている。小児の手術は全身麻酔で行った。今回のアイキャンプでは合計216人（218眼）の手術数であった。2名の小児の手術は両眼同時に行った。手術後荷物の梱包を行い次年に向けて整理したが、病院では手術物資が不足しているので必要なものを進呈した。これでほとんどの予定を終了し、ポルトガル料理のレストランで打ち上げをした。



（翌年に向けて資材を梱包した）

6月18日（火）晴れ。手術患者さんの回診を行なったが笑顔が溢れた。患者さんたちが感謝の歌を歌ってくれた。回診後、病院長に挨拶し、マップトに向けて出発した。マップトではJICA事務所を訪問し、活動結果を説明した。その後、日本大使館の方々との情報交換を行った。



（アイキャンプ終了記念撮影）

6月19日（水）早朝に空港に向かい帰国の途に就いた。

6月20日（木）予定通り帰国。